

# 主体的な学びを促す指導法による生徒の意識の変化

ふりかえりシートを活用して

埼玉県・さいたま市・浦和南高等学校 太田 敏之

## 1 はじめに

数年前から準備が容易で、かつ短時間で頻繁に行うことができるアクティブラーニングを実践している。また昨年度からプレゼンテーションソフトとふりかえりシートを活用した主体的な学びを促す指導法を実施している。そこで本発表では、それらの効果について考察し、生徒の数学の授業に対する意識の変化について調査し考察する。

## 2 主体的な学びを促す指導法

### (1) アクティブラーニング

生徒に考えさせたい概念について、相談活動や説明活動を行い、主体的で深い学びができるようにする。まず主体的な学びを活発化させるために、単語帳や30面体サイコロを使うなど工夫して、生徒をランダムに指名することにする。指名される生徒があらかじめわかってしまうと、その生徒以外は主体的な学びをしなくなる可能性があるからである。授業の展開は、まず生徒に指名する前に答えさせる質問を最初に言い、最初に一人で考えさせてから情報集めタイム（相談タイム）を設定し、その時間は立ち歩いて相談したい人と相談してもよいこととし、そこで相談したりわかっている生徒に聞きに行き説明してもらったりする。そして、なるべく全員がわかった状態で一人に指名して答えさせる。問題演習のときも、最初は一人で考えさせて問題を解かせてから、後半は答え合わせや質問・説明・相談時間として、立ち歩いてよいことにする。

### (2) プレゼンテーションソフトの活用

授業では、教科書会社が作成したデジタル板書を、生徒の実態にあわせて内容や展開方法、アニメーションを追加、修正して使用する。プレゼンテーションソフトを活用することにより、教科書にすでに書かれている概念説明や例題を教師が板書して生徒がノートをとるといった時間を短縮するために、進度に余裕ができ、概念を考えたり、相談や説明をしたりする時間がよりとれるように

なる。また、授業で使ったスライドを後から生徒にclassiで配信することで、生徒はノートに写さず説明を聞いて理解することに集中でき、ノートをとる時間を最小限に抑えることができる。

### (3) ふりかえりシートの活用

プレゼンテーションソフトを活用した授業はスライドが流れていくため、生徒はスライドの内容をそのままノートにとりづらい。そして生徒はただそれを眺めて聞いているだけになってしまいがちで、理解が深まらない可能性がある。そこでふりかえりシートを活用する。生徒はふりかえりシートにその授業で学んだ大切なことを自分の言葉でまとめて、週末に演習課題と一緒に提出する。それにより、プレゼンテーションソフトを活用した授業を聞くときに、教師が話した内容やスライドの内容のうち大切なものをノートにメモし、後でふりかえりシートにまとめるか、授業内で直接ふりかえりシートにまとめるようになる。

## 3 指導法による生徒の意識の変化

4月最初の授業と学期末の授業で実施した、生徒の数学の授業に対する意識調査アンケートによって以下のことが考察できた。

まずふりかえりシートの活用によって、「先生の言ったことのうち大切だと思うことをノートに取る」「自分が大切だと思うことを自分の言葉でまとめる」ということが必要であるという意識が高まったことがわかった。また、アクティブラーニングを取り入れて主体的な学びを促すことによって、「誰かと一緒に問題を解く」「わからない問題をクラスメイトに質問する」ということが必要であるという意識が高まったことがわかった。それによって、理解が深まり、解答を説明する力がつき、その効果が考査の得点にも現れた。

今後は効率をよくするために、classiNOTEを活用してふりかえりシートをデジタル化して提出させると、理解度はどう変化するかを考察していきたい。